

2006年(平成18年)5月3日 水曜日

富山

大日岳訴訟 国が控訴

「これ以上何を主張」

遺族ら怒り

北アルプス・大日岳の雪崩事故をめぐる訴訟で、国が2日、名古屋高裁金沢支部に控訴した

「これ以上何を主張したのか」と怒りをあらわにした。

富山地裁は4月26日、原告勝訴の判決を下した。原告の遺族は「これ以上何を主張したのか」と怒りをあらわにした。

た。文科科学省は「ご遺族の方々には誠意をもつて対応したい」としつつも、「講師らの過失を認めた判決には不服」としている。

事故で亡くなった大学生の遺族や支援者は地裁判決後、文科省や法務省などを訪れ、控訴しないよう求めている。遺族らは2日も国の控訴断念を訴える記者会見を開いたばかりだった。

三蒸司さん(当時22)の母で原告の万佐代さん(58)は、「大変残念。これ以上無駄な裁判を続けたい。国はまだ何を主張したいのか」と憤る。そして、「地裁判決や支援者の支えなど、今まで培ってきたものを元に戦っ

2006年(平成18年)5月3日

大日岳遭難死訴訟 国が控訴

北アルプス・大日岳で平成十二年、文部省(当時)登山研修所の研修登山中に大学生二人が死亡、遺族が損害賠償を求めた訴訟で、国は一日、約一億六千七百万円の支払いを命じた富山地裁判決を不服として、名古屋高裁金沢支部に控訴した。

控訴理由について、文科科学省は「講師らの過失を認めた本判決には不服がある。控訴審の判断を仰ぎたい」としている。原告の一人、内藤万佐代さん(58)は「予想はしていたが、大変残念。裁判が長引くと、(事故以来中止となっている)冬山研修会の再開も遅れ失を認めた本判決には不服がある。控訴審の判断を仰ぎたい」としている。事故は十二年三月、登山研修所が主催する冬山研修会で起きた。頂上付近で休憩していた研修生ら十一人が雪崩の崩落に巻き込まれ、内藤三蒸司さん(当時22)、横浜市保土ヶ谷区と溝上国秀さん(当時20)、兵庫県尼崎市が死亡した。富山地裁は「講師の登高ルートや休憩場所の選定に過失がある」として、国に損害賠償を命じた。

さん(当時20)、兵庫県尼崎市が死亡した。富山地裁は「講師の登高ルートや休憩場所の選定に過失がある」として、国に損害賠償を命じた。

ていく」と話した。

大日岳訴訟 国が控訴

原告落胆、驚きの声

「断念」求めた会見後

「まさか、控訴するなんて」「残念」。大日岳雪崩落事故で、4月26日に富山地裁判決で約1億6700万円の支払いを命じられた国が2日、控訴。死亡した学生の父親ら、原告は深い落胆と驚きの声を上げた。この日、原告3人が東京都内で記者会見し、国が控訴しないよう訴えたばかりだった。

原告はすでに4月28日、ついでに死亡した大学生内、文部科学省に対し、控訴断念を求める要請文を提出し、父、博さん(57)(横浜市保土

も大変な思いをしてきた。国は判決を真摯に受け止めるべきだと強調した。また、同じく亡くなった溝上国秀さん(同20歳)の母、洋子さん(51)も「国は、二人の青年が亡くなったという事実を重く受け止めて欲しい」と訴えていた。会見後、国の控訴を知っ

た博さんは、読売新聞の取材に対し、「残念だ。私たちは、国がこの事故を反省した上で、登山研修所に研修を続けてほしいと願っていたのに、これで、再開のめどが立たなくなるのではないか。今後は弁護士と相談して対応していきたい」と話した。

また、溝上国秀さんの父、不二男さん(60)も取材に対し、「驚いた。まさか国が控訴するとは思わなかった。私たちが何年も調査し、19万もの署名を集めたことを、どう思っているのか。国は、これからも同じ過ちを繰り返すのではないかと、憤りを込めて話した。

2006年(平成18年)4月29日 土曜日

控訴断念を

国に求める

大目岳訴訟、遺族ら

北アルプス・大目岳の雪庇崩落事故で富山地裁が国に損害賠償を命じる原告勝訴の判決を下したことを受けて、事故で亡くなった大学生の遺族らが28日、文部科学省と法務省を訪れ、控訴断念などを求めた。

訪れたのは、原告の内藤三恭司さん(当時22)

の母、万佐代さん(58)は横浜市IIら。万佐代さんは「これ以上、裁判を続けることは双方にとってマイナスだと伝えた。控訴されないことを願っている」と話した。今後、文科相あてにメールを出すなどして国に控訴断念を要請するとい